



未来・万人さ・高崎100年
共生都市の創造

たかさき
薪能

能

高崎市市制100周年記念公演

第15回
たかさき薪能

高崎市城址公園（高崎市役所前）

雨天の場合：群馬音楽センター

平成12年9月22日（金）
午後6時00分開演

（午後5時30分より演目解説）

観覧券発売中

自由席券 ¥4,500 指定券 ¥5,000（当日券 ¥5,000）

能（菊尾童）観世流 川原恵三他
狂言（苞山伏）和泉流 野村萬春他
仕舞（高砂）観世流 観世芳宏
（井筒）観世流 藤波重満
（天鼓）観世流 武田志寿
能（班女）観世流 下平克宏他

会場 高崎城址公園（高崎市役所前）
主催 高崎市・（社）高崎観光協会
お問い合わせ TEL027-321-1257
後援 高崎商工会議所

プレイガイド

高崎駅構内観光案内所・高崎市文化会館・群馬音楽センター

天草堂・カップビア・高島屋・スズラン・英眼院・山徳記念館・鶴山荘



演目解説

能 菊 慈 童

魏の文帝の臣下が勅命を受けて鄴城山に出掛ると、七百歳になる慈童がいた。

慈童は、法華經の偈を書いた菊の葉から、したたり落ちる露を飲んで、不老不死の身になったことをのべる。そしてその菊水を勅使にも勧める……。

能 班 女

野上の宿の遊女花子は、吉田の少将と契りを結び、扇を交換して別れた。その後、花子は、うつつな状態となり、花子は人々に班女と呼ばれた……。

花子が物狂いの状態で登場し、少将との再開を神に祈り、恋慕の情をのべながら舞う。吉田の少将は、女に扇を見せてほしいと言ひ、自らの扇を与えて、その扇により、互いが愛する人だとわかったのである。

★班女

前漢成帝の寵妃、班婕妤。帝の愛を失った自分自身を、秋になって捨てられる扇にたとえて詩作した。

演者及びスケジュール(予定)

17:30~18:00 演目解説 (30分)
有川美亀男 (群馬大学名誉教授)

18:00~18:15 あいさつ・火入の儀

18:15~18:55 能

菊慈童 (40分)

シテ (慈童) 川原恵三
ワキ (勅使) 村瀬 提
笛 藤田次郎
小鼓 森沢勇司
大鼓 亀井広忠
太鼓 徳田宗久
後見 武田志房 藤波重彦
地謡 観世芳宏 浅見重好
松木千俊 大松洋一
藤波重孝 北浪貴裕
武田友志 新江和人

18:55~19:15 狂言 苞山伏 (20分)

シテ (男) 野村萬斎
アド (山伏) 月崎晴夫
アド (山伏) 石田幸雄

19:15~19:30 仕舞 (15分)

高砂 観世芳宏
井筒 藤波重満
天鼓 武田志房
地謡 武田尚浩 浅見重好
松木千俊 藤波重彦

休憩 (20分)

19:50~21:15 能 班女 (80分)

シテ (花子) 下半克宏
ワキ (吉田少将) 村瀬 純
岡 (野上宿の長) 野村萬斎
笛 藤田次郎
小鼓 森沢勇司
大鼓 亀井広忠
後見 藤波重彦 武田尚浩
地謡 高橋弘 今井泰介
松本尚之 大松洋一
藤波重孝 小松山浩二
新江和人 金子聡哉

21:10 終了 (予定)

狂言 苞山伏

山伏と山人が、道で眠っていると、そこを通りかかった男が、山人の昼食の苞を置いて食べてしまう。目覚めてから、誰れが食べたのかと争いとなる……。山伏が犯人の男を折り出して、山人が男を追い込んでいく。

